

木馬会会報(第34号)

* 高松宮杯特集 *

宝塚記念号以来1ヶ月ぶりの木馬会会報第34号です。

今回の内容は、「高松宮杯・七夕賞の予想」と、めでたく(?)敦賀に転厩となるラッキー桑島さんの「特別読み切り〜追悼ライスシャワー編〜」です。

久々と7月の移動によるあわただしさの為、原稿提出率が悪いですが、いつも通りお楽しみください。

予想者 へな

高松宮杯

◎…ダンシングサーパス ○…ヒシアマゾン ▲…キョウワアリシバ
△…アイルトンシンボリ △…マチカネタンホイザ

…予想者の屁理屈…

最強牝馬ヒシアマゾンが復活する。6ヶ月半振りになるが調教も充分に行われており、状態に関してはまず心配はないだろう。普通ならこのメンバーでは楽に離して勝つと自信を持って言えるのだが、私が気になるのは57キロの斤量である。牝馬の57キロは牡馬の59キロにあたり、一流馬といわれた牡馬たちはこの59キロを背負っても楽々と勝ってきたものだが、やはり牝馬の57キロはそれとは訳が違う。アマゾンなら57キロを克服する可能性は、心配するのがおかしい位ものすごく高いとは思いますが、不安なものは不安であり、ちょっと割り引いて◎に限りなく近い○にする。

◎には思い切ってダンシングサーパス。重賞の常連でありながら、未だ重賞未勝利。父ダンシングブレーブの産駒が初年度となる今年こそ、初重賞制覇をして父の名を上げたいところである。嵌ればとてつもない瞬発力を見せるが、その反面モロイ部分もあり、アテにはしづらいタイプだが、ここ数戦のなかでは一番体調がいいと判断して◎をつける。

▲には前走圧勝したキョウワアリシバ。1500万での勝ちっぷりができるのだから、格の違いはあるかもしれないが、きっとここでも通用するだろう。アリシバにノーザンダンサーという超良血馬だけに本格化したとなれば怖い一頭だ。

私の大好きなアイルトンシンボリは最近器用さがなくなったように見え、小回りの2000ではちょっと分が悪いとみて△まで。あとは善臣のタンホイザ。

七夕賞

◎…ホワイトアクセル ○…ノーブルアクション ▲…テンジンショウゲン
△…フジヤマケンザン △…カサブランカシチー

今の福島は思いのほか荒れているらしい。手応え良く先行していても最後の直線で悪い馬場に脚を取られて思ったほど伸びない。今週の大雨でこの状況はますます顕著になるだろう。穴ならパワー型かダート活躍馬か。

◎にはホワイトアクセル。重が苦手なタイプと前から思っていたが、韓国馬事会杯やエプソムカップを見るとどうもそうでもないらしく、重になってこの馬の弱点である詰めの甘さが補われるのがかえて好結果につながっているのだと思われる。江田から小野に乗り換わるのも私にとっては好都合だ。

○はノーブルアクション。重の福島2000でアイネスタッチ・モンチッチと争って今年の福島テレビ杯を勝っているので今回も大いに期待できる。ハンデも52キロと軽く、前走より状態が確実にUPしているとあれば狙い目十分だろう。

▲は思い切ってテンジンショウゲン。もう6歳になるが、3歳にノーアテンションの子ながら新潟の新馬戦(1200だったと思う)を堂々と勝ち上がったときは“これは”と思わせた程の素質馬である。夏に調子を上げる馬で、休み明け2戦目なら前走のような事はあるまい。ダート実績があり、今の福島なら一発がある。穴を開ければこの馬だ。

フジヤマケンザンは当然重い印を付けるべきだが、馬場が悪いと58.5キロは数字以上に応えるとみて△まで。あとはダート馬カサブランカシチーに△。

久々に今週の“へな”の「この馬・あの馬・どんな馬」コーナー。

超自信のある絶対に勝つ馬を2頭ほど。

福島 未勝利戦 日曜日 タイキボンバー

札幌 摩周湖特別 日曜日 スイートタンジー

どちらも一番人気必至だが、確実に勝つとみる。

最後に「今週一番面白いと“へな”が思うレースだよ。」コーナー。

日曜日 福島9レース 「さくらんぼステークス」(4歳900万下)

グルメフロンティア、サンテアンドオー、スリリングアワー、タイガーチャンプといった秋には重賞で活躍するであろうメンバーが揃ったが“へな”の一押しはズバリ!!メジロテンオーだ。

まずは『おたべくんしばたまくん』のたんば賞的中の殊勲に敬意を表します。私は競馬ブック派なのですが『馬券の鉄人』のために最近毎週ギャロップも買っています。3点で当てるというのは本当に難しいですが20倍台を当てるとは大したもの。今後はページから名前が消えないように頑張りましょう。

高松宮杯

◎ヒシアマゾン ○アイルトンシンボリ ▲ナリタタイシン

△トーヨーリファール △ダンシングサーパス

シアトリカルは偉大である。アーニングインデックスが6月末現在で8、91なので、札幌記念のシアトルスズカの2着が入ると9を超えるかもしれない。ヒシアマゾンは、紙上パドックで見ると宝塚記念前のダンツシアトルと同じく銭形模様がくっきり出ており仕上がり、調子に全く不安がないと思う。時計のかかり出した中京コース、予想される重馬場も他馬が苦にするだけに有利となる。これで岡部様が乗れば鉄板だろうがそれは望みすぎか。

堅実なアイルトンを対抗、菊花賞大敗後の目黒記念が思いだされるタイシンを単穴。

少し狂うとすれば前走があまり評価されていないトーヨーリファールとダンシングサーパス。ともに中京巧者だ。穴人気のキョウワアリシバは前走の相手が非常に弱く、タイムもせいぜいGⅢ級のものでここでは足りないを見る。

結果的には実績重視の予想となりました。

七夕賞

◎インタークレバー ○フジヤマケンザン ▲ヤマニンリコール △ダイワジェームス

3年前の東京の条件レースで直線でまっすぐ走り、内から伸びた私の応援していた馬を勝たせてくれてから大の木幡ファンになりました。その後めっきり実力をつけて乗れる騎手となって嬉しい限り。ここは、前走もうまく乗って楽勝だったインタークレバーを力を入れて応援します。

出目では7にからんで、その両隣6、8枠を含めてここ十年完全連対。ここも6、7、8枠を重視してみます。

追伸

プライベートな福島遠征を7月22日～23日で敢行します。東京の競馬の友5名（20台3名（内若奥様1名）、30台1名、40台2名）と7月22日（土）14時にゴール板前の待ち合わせ。宿舎は飯坂温泉の花水館（0245-42-2211、小林名で2部屋予約）となっています。自分は22日の朝1番で同級性と一緒に乗り込み1Rからやるつもりです。これで行っていない競馬場は函館、新潟、小倉だけとなります。

高松宮杯

◎ゴールデンジャック ○トーヨーリファール ▲アイルトンシンボリ
△ダンシングサーパス △キョウワアリシバ △フェイバーワン

休養明けの格上馬が多い今回、私の信念からこれらの馬は本命には推さない。確かにヒシアマゾンとはとても強い。さらにいえば、やっとオープン馬のキョウワアリシバが人気になるくらい他のメンバーは層が薄い。こんな条件ならおとなしくヒシアマゾンという気もするが、でもやはり私は本命にはしないし、今回は買わない。そこで狙うのが休み明け二走目ゴールデンジャック。昨年1,200m、4歳牝馬限定とはいえ中京で圧勝したことを忘れてはならない。また、ダイタクヘリオス、ダイイチルビーで決まった平成3年を考えれば短距離適性のある中距離馬ゴールデンジャックをどうしても本命に推したくなる。同様の理由から対抗にトーヨーリファール。今回も前走同様逃げられればだが。長距離馬と思っていたアイルトンシンボリも最近を見る限り中距離に適性があること、岡部騎乗を考えれば上位か。

ちなみに、覆面デスラー氏からは次のとおり予想をいただきました。

◎ダンシングサーパス ○アイルトンシンボリ ▲ヒシアマゾン △キョウワアリシバ
(セタ賞は、◎ノーブルアクション○ホワイトアクセル▲シロキタガンバだそうです。)

今日からまたトウインクルがはじまります。11日は東京プリンセス賞です。牝馬に夢中のあなたにお勧めです。

◎ ダンシングサーパス
△ アイルトンシンボリ、ゴールデンジャック、セキテイリュウオー
ヒシアマゾン、フジヤマケンザン、マチカネタンホイザ

「宮杯」といえばキョウエイレア、キョウエイレアといえば「宮杯」。

そう、本当はこのレースは、「高松宮杯」なんて競輪みたいな名前をつけるのではなく、「レア杯」という名前をつけるべきだったのだ。

それほど僕が競馬を覚えた頃の希代の逃げ馬「片目（差別用語か？）のキョウエイレア」のこのレースにおける印象は強かったのだ。

しかし、今やツインターボもキョウエイレアもいない。

そこで、レースの検討だが、こんな長雨の異常気象。まともな馬は来ないと思い、思い切ってはずしてみました。最近、また調子が復活してきたので、僕の予想に乗ったほうが得だと思います。

老雄、淀に散る

「今ひとつ、伝わってくるものがないんだよね」菊花賞を目前に控えてライスシャワーの最終追いきり後の的場のコメントである。この年の菊花賞はミホノブルボンの無敗の三冠という大偉業がかかっていた。当時のくわじまは距離を不安視されたミホノブルボンを不動の軸としオッズを考慮し1点勝負の相手をライスか岡部（タンホイザという馬だった）かで迷ったあげく、金曜日の東スポにのった上記の記事を信じてブルボンー岡部にマン賭けした。キョウエイボーガンが淀短距離ステークスと勘違いしているかのような出ムチでブルボンの鼻をたたきレースは始まった。3コーナーの坂上でボーガンをかわしたブルボンに今度は失う物は何もないメイショウセントロが執拗にからんでいった。4コーナー入口でセントロを振り切った小島がいつになくブルボンの追いだしを一瞬躊躇したようにくわじまには見えた。直線半ばで数百万人の願いを背に受けて必死に逃げるブルボンの横を1頭の黒鹿毛が何事もなかったかのように走り抜いていった。ゴールの瞬間、気味が悪いほど静まりかえった京都競馬場の映像がいまでもハッキリと目に浮かんでくる。

ライスシャワーという馬を初めて知ったのがダービーの時であった。この時も距離を不安視されたブルボンを軸としての相手探しであったが、くわじまは青葉賞を圧勝した関西の秘密兵器、鞍上岡のゴールデンゼウスを相手とし、なぜか馬番ではなく枠の7-7を本線とした。セカイオーの出遅れで騒然としたスタートだったがブルボンがなんなく鼻にたち後続に影もふませず無敗の二冠馬に輝いた。注目の2着争いであったが1度外の赤い帽子が差したように見えたが内の橙の帽子がゴール前なぜか差し返し結果的には枠連7-7となった。この時3着の赤い帽子マヤノペトリュースやレース中骨折したゴールデンゼウスは今やターフを去り、鞍上の岡もこの世にいない。ダービー的中という予想家として最高の喜びを与えてくれたのが、出走していることさえも知らなかったライスシャワーの勝負根性だった。

初めてライスシャワーを馬券の対象としたのが4才最後の有馬記念の時だった。ジャパンカップを制したトウカイテイオーと当時底知れぬ魅力があったレガシーワールドが同居した3枠を相手に菊花賞馬ライスシャワーの8枠との枠連3-8に当時としては破格の大2枚を賭けた記憶がある。レースの結果は敢えてここでは書かないが、皮肉なことにトウカイテイオーは翌年の有馬記念で奇跡の復活をし、この年2着のレガシーは翌年ジャパンカップを制し、人気となった有馬で惨敗、ライスシャワーはテイオーに不利をうけレースにならず、結局菊花賞馬のハヤヒデとの枠連3-8で決まり、1年違いだったらなあとワケのわからない敗北感が師走に襲ったことを覚えている。

それだけなら、就業時間中に人目を忍んでこのような原稿を書くようなことはないのだが、ライスシャワーという馬を一生忘れることができなくなったのが5才の春、ライスにとって3回目の淀の舞台であった。メジロマックインという偉大にして数奇な運命を背負った名馬の3年連続盾制覇という大記録がかかった大一番である。この時のライスシャワーの鬼気迫る調教とパドックでのギリギリに仕上がった馬体のツヤと張りはいくわじまの競馬感に大きな影響を与えた。ゴール板をすぎてもステッキをいれ続ける的場とそれに耐えたライス、マイナス12キロの究極の仕上げであった。

僚友パーマーが引っ張り、マックにとって縦長の絶好の力勝負の展開となり、シナリオどおりに3コーナーすぎ、坂の下りの途中でパーマーをとらえたが、自身の菊花賞ではなくブルボンが敗れた時のように直線の半ばで背後から並ぶ間もなく黒鹿毛が交わしていった。マックの勝ったレースを何回も見ているくわしまにとって、マックのスパートに着いて行ってさらにそこから交わすなど信じられない芸当であった。

このレースは最後までマックの相手をパーマーかライスかで迷ったが調教と雨があがったのをみてマックーライスの1点に万賭けし、メモリアルプレザーを新調した思い出のレースである。このプレザーを着るたびにライスの鬼気迫る調教とパドックでのギリギリに仕上がった馬体のツヤと張りを思い出すであろう。

そして次にライスを馬券の対象としたのが、最後のレースとなった第36回夏のグランプリ、宝塚記念であった。

リアルシャダイにマルゼンスキーという、ダビスタであれば超脚部不安の血統でありながら不死鳥のように復活した関東の刺客。天皇賞の杉本アナの名実況の言葉を借りて、最後に老雄の冥福を祈りたい。（くわしまは天皇賞の予想でライスに「終」とシルシを打った。天皇賞で終わってくれば宝塚の出走はなかったのかなとも思うが今となっては、はかない空想である）

ここで黒い帽子のライスシャワーが上がってきた。3コーナーの坂を下ってライスだ、ライスだ、ライスシャワーだ。ライスシャワーが敢然と先頭にたった……。

ライスシャワー先頭、ライスシャワー先頭

やっぱりこの馬は強いのか、

ライスシャワーと的場だ！

平成7年6月8日 くわしま

冒頭でもお伝えした通り、ラッキー桑島さんがこのたび敦賀に転厩されることになりました。私ごとで申し訳ありませんが、昨年会社に入社して以来、廊下などで気軽に声を掛けてくれたり、飲み（歌い）に連れていってもらったりと、いろいろと面倒を見てくれた優しい先輩ただけに、今回の移動は私にとってはとても残念でなりません。いずれは東京に戻ってこれると思います、しばらくのあいだ、栗東（敦賀）の坂路でみっちり鍛え上げG I級の馬になり、いい繁殖牝馬をGETして戻ってこれることを心より望みます。頑張ってください。

さて、この後の会報の予定ですが、各馬とも放牧に出してしまうため（しっかりと休んで秋に備えましょう）しばらくの間お休みにさせていただきたいと思っております。

今のところ、休み明け初戦はナリタブライアン・レガシーワールド・マーベラスクラウンらが出走予定の9月17日の産経オールカマー（9月第3週）を予定しておりますので、そのつもりでどうぞ宜しくお願い致します。（忘れないで下さいね）もしかしたら、あまりにも調子が良いので突然出走することもあるかもしれませんが、その時は是非ご協力ください。

それでは木馬会の皆さんの夏競馬の大成功を祈って、今号はこの辺で終りにしたいと思います。夏カゼなどひいて体をこわしませんように。さようなら。

“へな” でした。